

平成24年度 評価計画及び自己評価

(計画・**中間**・最終)

倉橋西中学校区 校番 23 学校名 呉市立倉橋西中学校

a 学校教育目標	知性・情操・体力が個性豊かに調和し、創造性に富み、実践力のある生徒を育成する。	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション>(学校の使命) 「ふるさと倉橋」を愛し、ふるさとから愛される学校づくり  <ビジョン>(将来の学校像) 小中一貫教育のもと、学力の定着・向上、社会性の育成、ふるさと学習の推進を図る学校
----------	---	----------------------	---

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	(1) 学習に対する積極的な姿勢が育っておらず、学力が十分定着していない。言語活動の充実を図り、特に、「書いて話す」活動を全教科で取り組むとともに、生徒のつまずきの解消と学習への意欲の向上を図る授業づくりのなかで、学力の向上をめざす。 (2) 小中一貫教育を推進しており、「ふるさと学習」のカリキュラム化とそれに基づいた具体的実践を小中学校で実施した。新学習指導要領の完全実施に伴い、「ふるさと学習」の内容のより一層の充実を図るとともに、各教科等での「言語活動の充実」に向け「書く活動」と「話す活動」を手段とし小中学校で研究する。 (3) 生徒の規範意識の醸成及び社会性の育成と自主的活動の活性化が課題である。基本的な生活習慣の定着を図るとともに「ふるさと倉橋」を意識した地域での活動等、生徒の自主的活動に向けた行事の創造を推進する。
------------------------------	---

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・2・ <b>③</b> 年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策(こんなことをして達成します)	g 指標(効果を見とる目安)	h 目標値	(10)月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	【学力の定着・向上】基礎・基本の学力が身に付き、自ら学ぶ姿勢をもつ生徒の育成を図る。	ア 「書いて話す」言語活動の研究  イ 子どもの学びのポイントを的確に押さえた授業づくり	ア 教科指導の中で「書いて話す」活動の恒常的な位置づけ ○各教科で「書いて話す」活動を推進し、「手を動かす」学習を習慣化を図る。 ○学校行事等で「自分のことば」として話させる。  イ 授業のポイントが、子どもたちの学びのポイントであるという認識に立ち、小中一貫教育の推進のなかで、児童生徒の学習課題を明確にし、基礎・基本の確実な定着が図れる指導を行う。 ○「ねらい」に基づく授業展開の工夫  ○自主学習に向けてのノート指導による家庭学習の定着	・教員の満足度  ・実施回数【朝会・小中合同行事・江田島合宿・職場体験学習・総合的な学習の時間等での挨拶及び発表】  ・教員の満足度【概ねできている78%】 ・ノート等の提出率	90% 35回  90% 100%	91% 23回  78% 87%	100% 66%  87%	A C  B			
**	【小中一貫教育】小中一貫教育の研究実践を推進する。	ア 交流授業・合同行事の継続実	ア 小・中学校の児童生徒・教職員の交流を継続する。 ○小中連携のなかでの、合同行事の継続、小中相互の教職員交流の推進  ○中中連携のなかでの、合同行事の実施  ○統合に向けた教育内容及び諸計画の整理と統合諸作業の実施	・合同行事及び教職員交流の実施回数【合同遠足・海浜清掃・オペラ鑑賞・教職員交流5回】  ・合同行事の実施回数【合同遠足・海浜清掃】 ・統合作業の達成率【統合会議開催回数 58回】	年間10回  年間3回 100%	8回  2回 50%	80%  67% 50%	B C D			
*	【生活の向上】より良い学校生活を求め、日常生活の向上を心がける生徒の育成を図る。	ア 基本的な生活習慣の定着  イ 生徒の自主的活動の奨励	ア 返事、挨拶、服装、時間、掃除についての粘り強い指導 ○全校朝会を中心に返事・挨拶の指導、各学級や授業における共通指導、掃除の仕方の集中指導、生徒会による点検活動、家庭への協力依頼  ○生徒の部活動への意欲的な参加	・教職員の満足度【概ねできている88%】  ・生徒の部活動に対する満足度	90% 80%	88% 89%	98% 100%	B A			

【k:評価】  
 A: 100 ≧ (目標達成) B: 80 ≧ (ほぼ達成) < 100  
 C: 60 ≧ (もう少し) < 80 D: (できていない) < 60

平成24年度 結果の分析及び今後の改善策

( 中間 最終 )

呉市立倉橋西中学校区 校番 23 学校名 呉市立倉橋西中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	基礎・基本の学力が身に付き、自ら学ぶ姿勢をもつ生徒の育成を図る。	ア 「書いて話す」言語活動の研究  イ 子どもの学びのポイントを的確に押さえた授業づくり	ア 全教科及び学校行事での「書いて話す」活動の恒常的な位置づけ ○「各教科で『書いて話す』活動を推進する。」の教員の満足度は91%であった。これは、年度当初の校内研修での研究テーマの設定とその意義について、教員の意識統一が図られていることと、指導主事招聘・全教員参加の授業研究において、授業観察の視点の明確化やそれに沿った協議による授業改善に対する意欲の高揚が考えられる。  ○「学校行事等で『自分のことば』として話させる。」については、朝会、小中合同行事、宿泊学習、職場体験学習、総合的な学習の時間での挨拶や発表等で、現在までに23回実施した。各行事の事前指導で、書いて考えをまとめる取組や言語技術の向上を図っている。より一層大きな声で、自信をもち発表できるようになることが目標である。  イ 「基礎・基本の確実な定着」が図れる指導の工夫 ○『「ねらい」に基づく授業展開の工夫」の教員の満足度は78%であった。これは、本時の目標に対して、具体的な評価規準(評価の判定基準)が明確になっていないことが考えられる。  ○自主学習に向けてのノート指導や家庭学習課題の工夫において、ノート・課題等の5教科(国・社・数・理・英)の平均提出率は79%であった。数学でのB5版1枚の毎時の課題等は提出率は良いが、英語科等でのノートを活用した予習・復習課題等、根気のいる宿題は、学年によって提出率に大きなむらがある。	○各教科間での日々の授業交流や校内研修での各教科の取組事例の資料発表(12月実施)等を通じて、各教科での「書いて話す」活動の効果的な活用による学力の向上を図る。  ○今後も、文化祭のステージ発表や合同修学旅行、保育実習、立志式、閉校記念式等の行事及び日々の授業を通じて、本校の研究主題である「自信をもって表現できる生徒」の育成に向けて、事前指導や各教科での指導の充実を図る。  ○「ねらい」に対して、「概ね満足できる」具体的評価規準(判定基準)が妥当性・信頼性のあるものにするために、授業研究で協議を行ったり、管理職の授業観察等で指導・助言を行ったりする。  ○提出したノートの内容が充実したものにるように、模範となるノートを紹介する場を各教科が設ける。また、家庭学習については、保護者用携帯電話メールや懇談会等で、家庭とのより一層の連携を図るとともに、個に応じた学習課題も考慮し、提出率の向上に努める。
**	①貫 小中一貫教育の研究実践を推進する。	ア 交流授業・合同行事の継続実施	ア 小・中学校の児童生徒・教職員の交流の継続 ○小中連携での合同行事の継続、小中相互の教職員の交流の推進を図った。合同行事では、合同遠足・海浜清掃・オペア鑑賞を実施し、児童生徒の豊かな心や自尊感情、コミュニケーション能力の育成を図った。教職員交流では、授業研究への参加、合同研修会等を5回行い、教員の指導力の向上を図った。  ○中中連携行事においては、合同遠足・海浜清掃を実施し、統合を見据えたより良い人間関係づくりに取り組んだ。  ○統合に向けた教育内容及び諸計画の整理と統合作業の実施では、現在までに58回の統合諸会議を開催し、教育課程の編成、制服や生徒指導規程の見直し、設置備品の調整等、意欲的な取組を進めているが、今後も多くの検討課題があり、進捗度は50%である。	○今後は、小学校の道徳授業研究、中学校の英語科の授業研究(スタートカリキュラムの小中連携)への相互教員の参加が予定されており、児童生徒の学習意欲・学力の向上に向けて、より一層の授業改善に努める。  ○12月に合同修学旅行を実施予定である。宿泊学習の事前指導や実施を通じて、相互理解と親睦を図り、統合に向けてより一層の集団づくりを行う。  ○総務部会、施設・備品部会、教育課程部会、児童生徒部会、PTA部会の各代表が取組内容の精査を行い、3月中旬までの綿密な実践計画を立案し、部会員が期限厳守の確実な取組を行う。
*	生徒指導を充実し、健全な社会性をもつ生徒の育成を図る。	①貫 ア 基本的な生活習慣の定着  イ 生徒の自主的活動の奨励	ア 返事、挨拶、服装、時間、掃除の粘り強い指導 ○全校朝会での返事・挨拶の指導、各教科や学級での授業規律の確立、規範意識の醸成に向けて、校内研修会や職員会議で共通理解を図るとともに、職員朝会等でも日々確認しているところであるが、教員の生徒の指導に対する満足度は88%であった。全教職員が基本的な生活習慣や授業規律の確立に向けて意欲的に取り組んでいるが、指導力に差があり、やらせきるまでには至っていない。  イ 生徒の部活動への意欲的な参加 ○生徒の部活動に対する満足度は全学年の平均で89%で目標値を達成しているが、学年によっては、運動部だけの活動に満足せず、文化部の創部を求めている生徒もいる。	○全校朝会や各学級で、「返事」「挨拶」「服装」「時間」「掃除」等、基本的な生活習慣の確立がなぜ重要であるのかを生徒に十分理解させるとともに、各項目の生徒の善行に対しては全教職員で評価を行い、自己肯定感・規範意識の高揚を図る。また、生徒会を中心とした取組(各種委員会での呼びかけ・点検)を考えさせ、生徒の自律心の育成を図る。  ○来年の統合に向けて、心身の伸長を目的とした部活動の選択は非常に重要である。両中学校の実態を考慮し、運動部では何部を存続させ、文化部の創部では、どのような部が可能なのかを熟考し、決定する必要がある。

平成24年度 学校関係者評価及び改善策

( 中間 最終 )

倉橋西中学校区 校番 23 学校名 呉市立倉橋西中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	B	・子どもたちの現状をしっかりと見つめ、それを踏まえた上での目標・指標の設定がなされていると思う。 ・「書いて話す言語活動の研究」については、研究することが目標ではなく、その活動によって生徒がどのように変容するかが目標であるので、そこをしっかりと検証してほしい。
目標達成のための方策の適切さ	A	・大変細かに、多岐にわたっての学習課題や基本的な生活習慣の確立等に取り組んでいる。 ・具体的かつ適切に設定されている。
自己評価の結果と分析の適切さ	A	・目標・指標の設定に対しての取組が着実に成果となって表れていると思う。様々なデータに基づく適切な評価がなされている。 ・厳しすぎるくらいの評価がされている。
今後の改善策(案)の適切さ	A	・具体的に検討されていると思う。
その他		○授業参観を行ったり、先生方の教育活動の日々の取組を聞いたりして、子どもたちのために一生懸命取り組んでいることがよく分かった。これからも、子どもたちのためによりしくお願いしたい。 ○「遣唐使船まつり」に出演していた子どもたちの笑顔が印象的であった。地域の行事において、大変生き生きとした子どもたちのやる気と頑張りが伝わってきた。 ○教科書の使用のみならず、授業に興味を持たせるような補助教材等の工夫がなされているか。また、生徒一人ひとりの個性を十分に把握し、声かけや評価をお願いしたい。 ○もう少し家庭に還元して保護者に協力していただく必要がある。学校は限界以上のことをしている。 ○保護者に家庭での教育はどうあるべきかを認識していただくような方策はないだろうか。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	○各教科での「書いて話す」活動について、日々の授業交流や校内研修での各教科の取組事例の資料発表等を通じて、その効果的な活用による各教科の学力の向上により一層努める。また、全教科で、教材・教具の工夫改善に取り組み、学習意欲の高揚を図る。 ○家庭学習の定着については、保護者用携帯電話メールや懇談会等で、家庭とのより一層の連携を図るとともに、個に応じた学習課題も考慮し、提出率の向上とともに、学力の定着に努める。 ○小中連携行事やふるさと学習の実施及び地域行事への参加を通じて、自尊感情や郷土愛を育成することは重要である。今後もより一層の充実を図る。 ○今後も、意欲的なホームページの更新や保護者用携帯電話メールの配信、参観・懇談会の実施等を通じて、学校教育に対する保護者や地域の理解と協力を要請していく。
--------------------	--